

・透析療法ってどういうもの？

働きの低下した腎臓の代わりに、血液をきれいにする治療法で、最も一般的でよく知られているのは血液透析です。

腕の血管から血液を体外に取り出し、透析器できれいにした血液を再び体内に戻します。**1回4～5時間、週3日**ほど、専門の医療機関に通院する必要があります。体調不良を伴うこともあります。

糖尿病性腎症は、新たに透析療法が必要となった原因の病気**第1位**です。透析治療は一度始めると、**一生続けていかなければなりません**。



糖尿病性腎症になったら透析が必要なのか。
こわいなあ。



いいえ！

早期の段階で気づき、
治療を始めれば進行を遅らせることができます。

・早期発見が予防のカギ

糖尿病性腎症は**自覚症状なく**進行します。

“手足のむくみ”などの症状が現れるころには、進行を抑えることが難しくなり回復は困難となります。

早期発見・早期治療を行うには、

定期的な健診・受診 + その後の血糖コントロールが重要となってくるのです。



糖尿病性腎症を早期発見する検査



尿検査



血液検査



・尿たんぱく値

※微量アルブミン尿検査

たんぱくが検知されない段階でも、微量アルブミン尿が検知されれば腎機能の低下がわかります。

・eGFR（血清クレアチニン値から計算）

正常な腎臓の機能を100として、腎臓の機能がどのくらい残っているかを示しています。

自分で行えるチェックは、**むくみ、血圧上昇、だるさ**などの小さな変化を見逃さないことです。

変化があったときにはすぐに主治医に相談しましょう。